

# イネクロカメムシに対するプリンス箱粒剤の防除効果

農業研究部 病害虫チーム

イネクロカメムシの成虫は、水稻の移植10日後頃から水田に侵入し、株元で吸汁するため稲株の生育が遅延し欠株となる被害も生じる。被害回避には、水稻生育初期の防除が重要であり、育苗箱施薬により安定した効果が期待できる薬剤が明らかとなった。

## 【普及したい技術のポイント】

- ①イネクロカメムシ成虫に使用できる育苗箱施用薬剤の中ではプリンス箱粒剤の効果が最も安定している。
- ②プリンス粒剤の育苗箱施薬により、7月下旬頃までイネクロカメムシ成虫の生息密度を低く抑えることができる。

## 【研究成果の内容・留意点】

### 1. プリンス箱粒剤の成虫に対する密度抑制効果

- ①育苗箱施薬により安定した防除効果が期待できる（図1）。
- ②曇雨天が続く気象条件では、効果が低くなる傾向がある。

### 2. 留意点

- ①イネクロカメムシに登録のあるプリンス剤を使用する。
- ②育苗箱当たり50gを播種時、または移植3日前から移植当日の間に処理する。
- ③近年発生が増加しているフタオビコヤガに対して、プリンス箱粒剤の残効性はやや短い。一方で、ウンカ・ヨコバイ類、コブノメイガに対しては同時防除効果が期待できるので、効率的である。

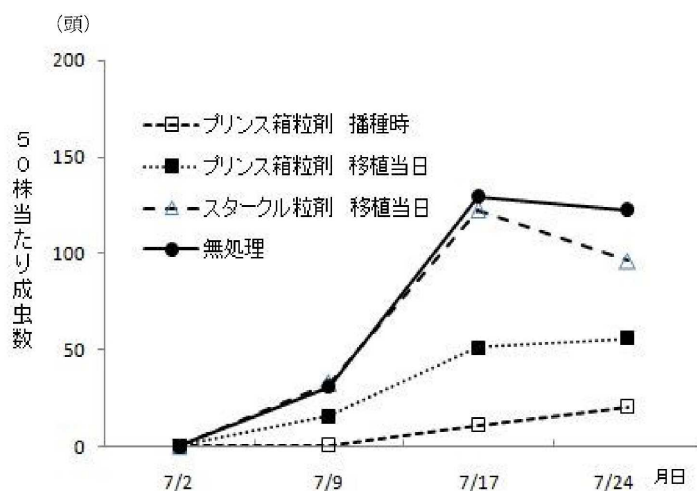


図1 イネクロカメムシの成虫に対する密度抑制効果